



5/2 「郷土を愛する心日本一」を目指す法奥小学校 ふるさとクリーンウォーク

法奥小学校（蛸名祐一校長）が、市の推進する『日本一を目指した特色ある教育活動』の一環として、環境教育の『ふるさとクリーンウォーク』を行いました。
この活動は、十和田湖の国立公園指定80周年にちなみ、児童が郷土の良さを再認識する機会もかねています。
児童らは、ごみ拾いやヤマメの稚魚放流などを行い、到着した休屋では十和田湖小学校（瀧野昭彦校長）の児童と交流し、郷土への関心を深めました。



全校一斉に清掃活動。3～6年生は奥入瀬溪流沿いを歩き、子ノ口までごみ拾いと自然学習をしました



駒街道に色を添えた『さくらになり帯』の皆さん

4/29 艶やかに駒街道を舞う さくらになり帯

八郷らくらく会が結成した『さくらになり帯』が、和装で官庁街通りを歩き、三本木小唄の流し踊りを披露しました。この日はあいにくの雨模様でしたが、三本木小唄の音楽が流れると雨も止み、観客からは自然と手拍子が沸き起こりました。
桜の花はほとんど散っていましたが、思い思いの着物を着て、駒街道を老若男女、いきいきと踊る姿に沿道からは大きな拍手が送られました。

4/29 清らかな水の流れにしぶきをあげて回る水車 手作り水車コンテスト

中央駐車場前の水路で、『手作り水車コンテスト』が行われました。主催のNPO法人十和田L、ステージクリエイイトや東小学校仲よし会などが作成した水車が並ぶ中、三本木中学校科学部の生徒らが、それぞれ自作の水車を設置したり、訪れた子どもたちに手づくりのスノードームなどを手渡しました。
大きな水車や身近な材料を使ったカラフルな水車に、観光客も足を止め、見入っていました。



手作り水車を前に、十和田水神雷太鼓による演奏も行われました



「ここにもあるよ!」と、力を合わせてゴミ拾い

4/23 きれいなまちを歩いてほしい 春のクリーン大作戦

「小さな親切」運動十和田支部（鳥谷部一嘉代表）による『春のクリーン大作戦』が行われ、約120人が参加し、官庁街通り周辺のごみ拾いをしました。
サッカーチーム『セラリオFC』の皆さんは「観光客の皆さんにきれいな十和田市を歩いてほしい」と話し、積極的にごみを拾いました。ごみ拾い後は、フルーティスト佐々木優花さんとギタリスト廣木光一さんによるコンサートが市役所エントランスホールで行われました。

4/23 研究の成果は一期一会の精神 ノーベル医学生理学賞受賞 大村教授講演会

創立50周年を迎えた北里大学獣医学部（高井伸二学長）が、昨年ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智北里大学特別名誉教授の記念講演会を市民文化センターで行いました。この講演で大村教授は、50年間、信条としてきたのは『一期一会』であり、仲間や微生物たちに深い尊敬と思いやりを抱き続けていると話し、「どの機会も二度と訪れることはない。訪れたチャンスをつかみ取ることが大切」と、観客の中高校生に呼び掛けました。



「つらいときこそ勝負だと学び、その経験で研究も仕事もできた」と話す大村教授



「命を大切にすることを伝えたい」と大会宣言をした南小学校リトルJUMPチームの畑山藍舞君と白山瑛琉君（共に6年）

4/21 春の安全・安心まちづくり旬間 南小学校リトル JUMP チーム大会宣言

県の『春の安全・安心まちづくり旬間』に合わせ、十和田地区では十和田警察署に防犯指導隊員ら約80人が集まり、犯罪のない安全・安心なまちをつくることを誓いました。
十和田警察署の岩淵猛署長が「地域の方々の自分の安全を自分たちで守るための広報活動やパトロールが大切です」と呼び掛けた後、南小学校リトル JUMP チームの2人が大会宣言を読み上げました。

Pick Up まちの発展は人工河川『稲生川』 上水 158 年記念の太素祭

5月3日から4日にかけて中央駐車場で『太素祭』イベントが行われました。
特設ステージでは、北園小学校、十和田中学校、三本木高校の各吹奏楽部の演奏や琴・太鼓演奏、伝統芸能発表などが行われ、会場を沸かせました。
5月3日には、稲生川の歴史をたどる『十和田ウォーク 2016』が開催され市内外から104人が参加しました。
参加者は、稲生川取水口（法量地区）から20km・13km・5kmの3コースに分かれ、幻の穴堰や巫女塚など見学スポットに沿って、ゴール地点の桜の広場を目指して春のウォーキングを楽しみました。
三本木原の開祖・新渡戸傳翁親子三代を祭る太素塚では、5月4日に、人工河川「稲生川」の上水158年を記念した太素祭式典が行われ、新渡戸家の現当主・明さんをはじめ、大勢の市民や関係者が参列し、開祖の偉業を偲びました。

太素祭イベント



▲十和田中学校吹奏楽部の皆さん



▲『浦島』を演じた南部切田神楽会

十和田ウォーク



▲集合場所の桜の広場で記念写真



▲稲生川取水口を出発



太素塚参拝
◀「開祖の偉業に感謝し参拝は毎年欠かさない」という市民（顕彰堂で）